

国語科「国語総合」学習指導案

日 時 令和3年11月10日(水)
対 象 第1学年

1 単元名

- 「古文に親しむ なよ竹のかぐや姫（竹取物語）」
【使用教科書：高等学校 改訂版 標準国語総合（第一学習社）】
【使用副教材：トータルサポート新国語便覧（大修館書店）】
【使用副教材：新精選古典文法 改訂版（東京書籍）】

2 単元の目標

- ・古典文学史における『竹取物語』の位置づけを理解し、言語文化に親しむ。
- ・前単元までに学習した古文の知識を使い、平易な口語訳を作成し、文意を独力で読み取れる。
- ・動詞と形容詞の活用の復習を行うとともに、形容動詞を新たに学び、用言の活用を理解する。

3 単元（題材）の評価規準

| ア 関心・意欲・態度 | イ 読む | ウ 知識・理解 |
|------------------------------------|---|---|
| ・古典に触れることの意義を理解し、特徴について理解しようとしている。 | ・かぐや姫のおいたちと成長の様子について理解している。 ・翁がかぐや姫をいとおしむ気持ちを読み取ることができる。 | ・用言の活用を中心に、本文中における文法的な事項について理解している。 ・作品中に登場する通過儀礼について理解する。 |

4 指導観

(1) 単元（題材）観

本単元は、平成22年告示高等学校学習指導要領国語編「第2章第1節 国語総合」「3 内容」における「C 読むこと」の「ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。」及び、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の「ア（イ）文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること」を踏まえて設定した。

本単元で扱う「なよ竹のかぐや姫」は、現存する最古の物語として千年以上読み継がれているという価値を有し、後世の物語文学の先駆けとなった作品である。生徒にとっても馴染みの深い作品であると考えられるため、興味関心を引き出しながら、古典に関する基本的な事柄を獲得することができるのが特長である。3学期の学習の中心となる漢文や2年次で行う古文の学習へと繋げられるよう、古典世界や言語文化への興味を喚起しつつ、基礎基本を定着させられるように指導していく。

(2) 生徒観

これまでの古文の学習について、1学期には「児のそら寝」で歴史的仮名遣いや動詞などの古文の導入を行い、2学期の「絵仏師良秀」では形容詞の活用及び助動詞の基礎を中心に、基本的な助動詞や係り結びなどについて学んだ。このクラスは学習に対する姿勢が良好な集団である。講義では集中して聴き、教員の発問に対しても意欲的に反応する。また個別の学習活動にも熱心に取り組むことができる。集団としての課題は、その場での理解で終わらず、定着を目指していくにところにあると言える。特に古典文法に関しては、中間考査の結果を踏まえ、取り組み方によってはより一層の定着が期待できる。そのため授業では、可能な限り生徒同士が関わりながらアウトプットし振り返る機会を取り入れ、意欲的な姿勢を維持しつつ思考力を伸ばしていきたい。

(3) 教材観

本単元では、古典の基礎として初めて「順接の確定条件」を学習する。「順接の確定条件」には3種類の訳出があるが、前後の流れを踏まえて文脈から判別する必要がある、習得には読解力が不可欠である。本単元では「順接の確定条件」が5つ登場する。生徒の習熟度に応じて説明に緩急をつけながら、丁寧に指導していきたい。主に教科書やノート、ワークシートを用いて学習を行う。また、本文において、既習事項がどのような形で存在しているか理解できるように効果的な板書（ノート作り）となるよう工夫する。1学期は個別の活動が中心であったが、感染拡大防止の観点を踏まえつつ、音読やペアワークなどの活動を取り入れていく。

5 年間指導計画における位置付け

| 学期 | 月 | 単元 | 具体的指導目標 | 指導内容 | 予定 時数 |
|---------|----|----------|--|------------------------------------|----------|
| 2 学期 | 9 | 古文に親しむ | ・興味深い内容の話を読ませることによって、古文に親しみを持つ。 | ・「絵仏師良秀」（宇治拾遺物語） | 11 |
| | 10 | 小説 | ・短編小説の特色を理解させ、描写から想像を広げ、筆者の描く世界を読み取る。 | ・夏目漱石「夢十夜 第一夜・第六夜」 | 12 |
| | 11 | 古文 評論 | ・論理的な展開に慣れ、論の構成を読み解き、自らの文章に活かす。 | ・「なよ竹のかぐや姫」（竹取物語） ・鈴木孝夫「日本語万華鏡」 | 11 |
| | 12 | 和歌 | ・日本古来の定型詩としての和歌を扱い、季節感や修辞を考え、歌の心を読み取る。 | ・「古今和歌集」 ・「新古今和歌集」 | 3 |

6 単元（題材）の指導計画と評価計画（5時間扱い）

| | 目標 | 学習内容・学習活動 | 評価規準 (評価方法) |
|-------------|--|---|---|
| 第1時 | ・単元の目標を確認する。 ・『竹取物語』の古典文学史における価値を理解する。 ・全文を通読後、第一段落の音読、係り結びについて学ぶ。 | ・講義を通して、単元の目標を確認する。 ・『新国語便覧』を用いて『竹取物語』の基本事項を理解する。 ・第一段落中の係り結びについて確認し、本文中の別箇所を見つけ、自分で説明することを通じて理解を深める。 | ・ア（行動の観察） ・イ（ノートの記述内容） |
| 第2時 | ・助動詞活用表について、使い方を理解する。 ・第一段落から順接確定条件について学ぶ。それに伴い、用言の活用の復習を行う。 | ・助動詞活用表を再度確認し、その使い方を身に付ける。 ・講義を通して、順接確定条件の用法を学び、口語訳を作成する。上一段活用の復習や形容詞の音便化を学ぶ。 | ・ア（行動の観察） ・イ（ノートの記述内容） ・ウ（ノートの記述内容） |
| 第3時 (本時) | ・第一段落の後半部分を文法的に説明する。 | ・ペアワークを通じて、第一段落の該当箇所を相手に分かるように解説を行う。 | ・イ（ノートの記述内容） ・ウ（ノートの記述内容） |
| 第4時 | ・第二段落、第三段落の読み取りを行う。 | ・翁の生活の変化、かぐや姫の特異性や寵愛について理解する。 | ・ア（行動の観察） ・イ（ノートの記述内容） ・ウ（行動の観察） |
| 第5時 | ・第五段落の読み取りを行う。 ・本単元の振り返りを行う。 | ・第五段落の読み取りを行い、内容のまとめをする。 ・竹取物語の別の話について紹介する。 ・振り返りシートを使用し、本単元に対する到達度を確認し、復習を行う。 | ・ア（行動の観察と振り返りシートの記述内容） ・イ（ワークシートの記述内容） |

※アイウの評価規準は考査によっても評価する。

7 指導に当たって

- ・指導方法の工夫：重要表現については抜き出して解説を行う。文法事項を扱う際は、十分に時間をかけて取り組む。
- ・授業形態の工夫：全体への講義を中心とする。音読や文法問題などの活動では、隣席同士のペアワークを取り入れ、思考力と表現力を高める。その際、机間指導を行い、思考が停滞しているペアに積極的に声掛けを行う。

8 本 時（全5時間中の第3時間目）

(1) 本時の目標

- ・第一段落の後半部分の助動詞・形容詞について文法的に説明することができる。
- ・順接確定条件への理解を深め、「原因・理由」を用いて訳すことができる。

(2) 本時の展開

| 時間 | 学習内容・学習活動 | 指導上の留意点 | 学習活動に即した具体的な評価規準（評価方法） |
|--------------------|---|--|------------------------|
| 導入 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ・始業の挨拶をする。 ・前時の振り返りと本時の目標の確認を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、出欠の確認をする。 ・本時の目標はスライドを用いて、注意喚起を促す。 | |
| 展開 ① 25分 | <ul style="list-style-type: none"> ○第一段落「知りぬ」から、助動詞活用表の使い方を再確認する。 ・「知り」と「ぬ」について文法的に明らかにする。 ○第一段落後半「来ぬ」「養はず」について、ペアワークを通じて理解を深める。 ・個人作業で「来ぬ、養はず」の助動詞について文法的に明らかにする。 ・ペアワークを行い、読み取りの結果を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習であるため、スムーズに指名し、解答を黒板に埋めていく。 ・プリントを配布する。 ・個人→ペアワークの流れを伝える。「どのように明らかにするか」も示し、取り組み易くする。 ・机間指導を行い、停滞している生徒へ活動を促す。 ・代表者に確認した内容について発表させる。 ・「妻の嫗」口語訳について補足説明を行う。 | ウ（行動の観察 ・発言） |
| 展開 ② 15分 | <ul style="list-style-type: none"> ○第一段落後半の形容詞を確認し、理解を深める。 ・「うつくしき」「限りなし」「をさなけれ」を文法的に説明する。 ・「をさなけれ」は下接する「ば」と合わせて順接確定条件であることも確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本単元前に取り組んだ形容詞の学習のまとめと位置付けて取り組ませる。 ・個人作業の時間を確保した後、明らかにした内容について、指名して答えさせる。 ・順接確定条件は難解な文法事項であるため、用法について再度確認する。 ・上記の学習事項が済み、文法事項の振り返りを行う。 | イ（行動の観察 ・ノートの記述内容） |

| | | | |
|-----------------------|--|---|--|
| ま と め 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を振り返る。 ・終業の挨拶をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の内容について、振り返りを行う。 | |
|-----------------------|--|---|--|

(3) 板書計画

パワーポイントと板書との両方を用いる。※別紙（1）（2）（3）参照

(4) 授業観察の視点

- ・パワーポイントでの導入は、生徒の興味関心を喚起するのに有効であったか。
- ・助動詞の課題は、生徒が取り組むのに対して適切な時間配分であったか。
- ・ペアワークに際しては全体を見回して、思考が停滞しているペアに指導ができていたか。